

2024年5月14日
損害保険ジャパン株式会社

ステーブルコインやデジタルウォレットに関連する Web3 領域のサイバーリスク対策においてみんなの銀行との共同検討を開始

損害保険ジャパン株式会社（代表取締役社長：石川 耕治、以下「損保ジャパン」）とふくおかフィナンシャルグループ傘下の日本初のデジタルバンク、株式会社みんなの銀行（取締役頭取：永吉 健一、以下「みんなの銀行」）は、2024年5月から、日本国内のステーブルコイン発行に伴う Web3 デジタルウォレットおよびウォレット内に保管されるデジタル資産をサイバーリスクから守るための新たな保険組成に関して共同検討を開始します。

1. 背景

デジタル技術の発展に伴い、グローバルの Web 3 市場は急速に成長しています。しかし、Web3 の急速な発展において、現在も法規制やインフラが十分に整っておらず、デジタル通貨やデジタル資産がハッキングやフィッシング詐欺などのサイバーリスクにさらされています。今後、国内でステーブルコインや暗号資産、各種トークンなどのデジタル資産の流通が発展し、それらを保管・管理するデジタルウォレットの必要性が高まることを踏まえ、損保ジャパンとみんなの銀行は、デジタルウォレットやデジタル資産をサイバーリスク等から守る仕組みを提供するため、新たな Web3 型のデジタルウォレットと Web 3 の保険分野や保険付帯サービスの共同検討を開始します。また、ウォレット開発や保険組成は Web 3 の技術に関する専門的な知見が必要なため、損保ジャパンの事業パートナーである、世界トップクラスのブロックチェーン・フルスタック・エンジニアリング企業の dApp Technology Inc.（CEO：Kevin Callahan、CTO：David Liu）も本検討を支援していきます。

2. 今後の方向性

損保ジャパンとみんなの銀行は、今後もより一層 Web 3 市場が拡大していく中で、Web 3 デジタルウォレットのリスク実態把握およびリスクマネジメント事業の提供を通じ、新たな金融サービスにおける安心・安全を提供すべく、各種サービスの共同検討を実施していきます。

以上